

\*\*\*\*\*  
日本図書館協会 第42回 図書館建築賞 (資料)  
\*\*\*\*\*

〔講評〕

受賞館：佐川町立図書館さくと（高知県）

佐川町立図書館さくとが位置する佐川町は、街道が交差する結節点で、古くから土佐藩の要衝として筆頭家老が治める文教のまちとして栄えてきた。以前は、地域住民が集まれる居場所がなく、図書館建設を求める声が地域住民からあがり、町民が交流できる学びの拠点として図書館が整備され、「まちのリビング」として地域の住民が集まり、様々な活動がここで展開されるようになった。

建物は約 1131 ㎡の木造平家建てで、蔵書収容冊数は開架 5.1 万冊、閉架 3.6 万冊、収蔵庫 1.3 万冊の計 10 万冊である。図書館単独ではあるが、多様な活動が行える学び合いスタジオや収蔵庫など地域アーカイブの拠点機能を持つ多機能融合型の施設である。平面は 8 の字の形で、エントランスからみて手前の丸部分に中庭を配し、奥の丸部分は柱 8 本を中心とした天井が高い開架室で、複雑に折れ曲がった屋根で覆われているが、中庭や高窓からの採光で室内は明るく見通しはよい。

図書館の新築を機に、様々な地域住民主体のグループが発足し、学び合いスタジオや開架室内で、活動が展開されている。また、近隣小学校とも連携して、下校時に保護者の送迎の待ち合わせ場所として、図書館が利用されている。懸案の駐車場も隣地に確保でき、コミュニティバスの停留所も施設前にあり、駐輪場も整備され、図書館へのアクセシビリティは高くなっていると感じた。

開館して間もないことから、図書資料はまだ少ないが、表紙見せなどを積極的に行い、図書資料と利用者、様々な活動をしている団体や個人とを「つなぐ」場所として、図書館が活用され始めている。



▲[左上] 盆地のこの町からは周囲を囲む四国山脈の山々が印象的に映る。皆の学びあいの広場となる大屋根を持つ平屋の図書館。

[右上] 大屋根を支える大黒柱。大黒柱と中庭の2つを中心とした回遊性のある動線を生む。

◀[左] さくとを象徴する町民たちが学びあうためのスタジオ。ワークショップやイベントなど様々な活動が行われている。

(佐川町立図書館さくと)